

たのしい えんそく

本文（紙芝居として活用）

「ルールをまもって、たのしくすごしましょうね。」

「は～い。」

「みんなで、おにごっこしよう！」

山に遠足に来て、子どもたちはおにごっこをして遊んでいます。

「ここまでおいで。」「つかまるもんか。」

クマくんは、枝を折りながら木に登ったり、

花を踏みつけたりしながら、夢中で遊んでいます。

それを見て、友だちはびっくりしています。

「さあ、おべんとうにしましょう。」

「やったー！」「おなかペコペコだあ。」

切り株の上で、笑顔でお弁当を食べ始める子どもたち

「クマくん、すごいスピードだね。」

食いしん坊のクマくんは、食べ散らかして、ゴミもポイ捨てしています。

「ああ、おいしかったあ！」

大の字に寝転がりました。

そして、クマくんは 眠ってしまいました。

クマくんのまわりが急に暗くなってきました。 * 太字の場面は夢の中の出来事

「えーん、えーん。」「ぐすん、ぐすん。」

折れた木の枝や花が泣いています。

「きたなくていやだよ。」

切り株も泣いています。

「わぁー。」

クマくんは、頭を抱えてうずくまりました。

うなされているクマくんは、友だちに揺り起こされました。

「ああ、ゆめだったのか。」

まわりを見まわすと、枝や花、そしてゴミが散らかっています。

「ごめんなさい。」

クマくんは、枝や花に謝りました。

そして、散らかしたゴミを片づけました。

「さあ、しゅうごうですよ。」

先生の声に、みんなは集まっていきます。

あれっ クマ君のリュックに、何かついていますよ。

葉っぱの手紙です。

『またおいで 山のなかまより』

いっしょに あそぼ

本文 原典「2011 揖龍同教人権文集 ひかり」(3年生作品 改作)

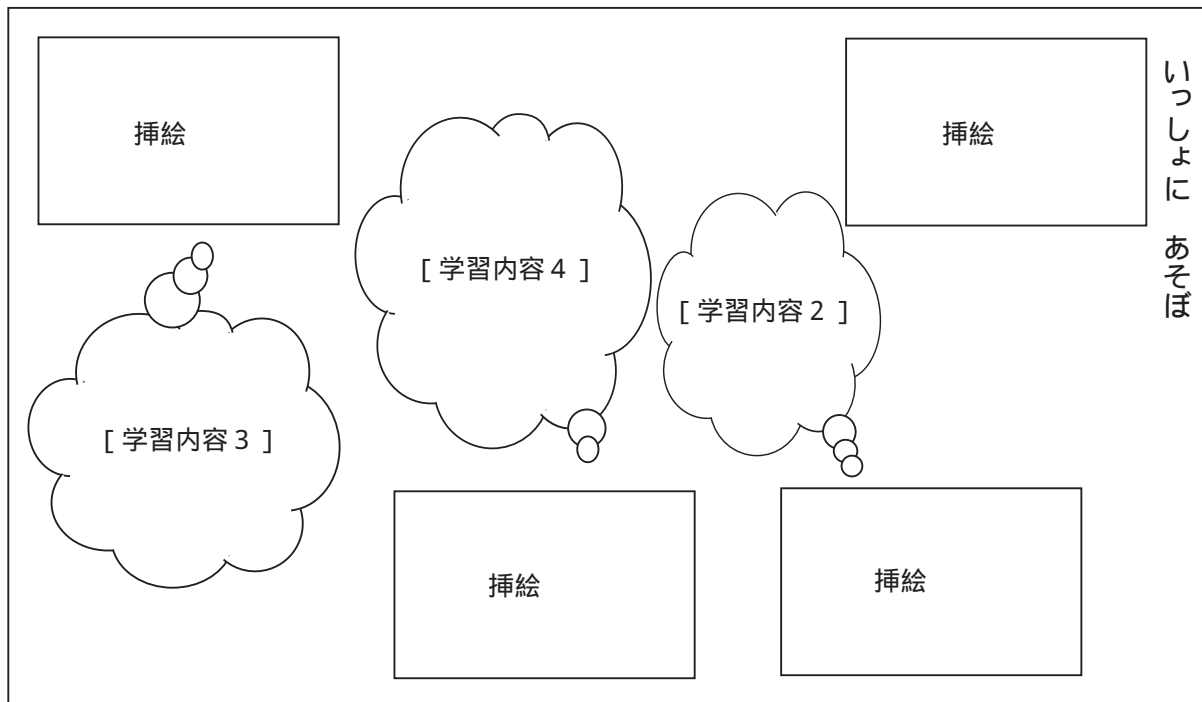
わたしは、休み時間にはるちゃんたちとジャングルジムで遊んでいました。
すると、なつみちゃんが一人ぼっちでいたので、
「いっしょにする？」
と声をかけました。
なつみちゃんは、すごうれしそうに、
「うん。」
と言いました。
すると、はるちゃんが、
「だめっ。」
と言いました。

わたしは そのまま遊んでいたけど、なんか変な気持ちでいました。わたしが はるちゃんたちと遊ばなかったら なつみちゃんと遊べて、なつみちゃんが一人にならずにすむんだけど、今度は、はるちゃんがわたしと遊んでくれないと思ったからです。でも、なつみちゃんは、さびしそうにしています。

次の日、わたしは 学校でなつみちゃんと遊ぶことにしました。
わたしは、
「いっしょに遊ぼ。」
と、なつみちゃんに声をかけました。いっしょにあそぶと、なつみちゃんがニコニコしていました。わたしも、とてもうれしかったです。

わたしは、はるちゃんともいっしょに遊びたいです。みんなで遊べるといいのにな。
どうしたらいいかなあ。

板書例



黒板の挿絵は、「前日(挿絵)」を右側、「次の日(挿絵)」を左側、「思い悩んでいるわたし(挿絵)」を中央に提示し、対比させながら考えられるように工夫する。

はるかのひまわり

参考資料

- ・ 絵本「あの日をわすれない はるかのひまわり」(指田和子作 2005年 P H P 研究所)
- ・ NPO 法人阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」HP <http://117kibounoakari.jp/>

「はるかのひまわり」について

「はるかのひまわり」とは、阪神・淡路大震災で、家の下敷きになって亡くなった加藤はるかさん(当時11歳)という女の子の名前にちなんだものです。

はるかさんは、いつも笑顔で元気いっぱいの子でした。震災の年の夏、はるかさんの家があった空き地から、たくさんのひまわりの花が太陽に向かって力強く咲きました。そのひまわりは、はるかさんが可愛がっていた隣の家のオウムの餌だったひまわりの種から咲いた花でした。

地域の人たちはその種を大切に集め、それを「はるかのひまわり」と名づけて、毎年絶えることなく植え続けています。震災で何もかも無くしてしまった神戸の街に、次々に大輪の花を咲かせた「はるかのひまわり」は、たくさんの人を励まし、勇気を与えました。

その後、「はるかのひまわり」の種は、ボランティアの人たちの手によって、新潟中越地震などによる国の内外の被災地に届けられ、送られたそれぞれの場所で「はるかのひまわり」がつながり、生き続けています。

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災では、全国、全世界からの救援活動が展開されています。「はるかのひまわり」の種も神戸や東北のボランティアの方々によって、何万粒も植えられました。きっと、被災した街でも「はるかのひまわり」は、たくさんの人を励まし、勇気を与えていることでしょう。

阪神・淡路大震災の経験から学んだことや受け継ぐことは、たくさんあります。人々の絆の象徴である「はるかのひまわり」もその一つであると思います。

「はるかのひまわり」を命の大切さ、命のひろがり、人と人とのつながりを学ぶ資料として活用ください。

宮城県気仙沼市立馬籠^{まごめ}幼稚園の実践「『はるかのひまわり』を咲かせよう」について ねらい

- ・ 「はるかのひまわり」の活動を通して、命の大切さに気づく。
- ・ 人と人とのつながりの大切さを知り、感謝の気持ちをもつ。

活動の様子

- ・ 震災後、支援のために「はるかのひまわり」の絵本と種が園に届き、絵本の内容に幼児も教師も心を打たれ、幼児たちに無事生きていることに感謝する気持ちが芽生え、種をまくことになった。
- ・ 花壇を作り、種をまき、水やりなどの世話をすることをおして、気づきや発見があった。
- ・ 育ったひまわりを触ったり、描いたりして、命の大切さを実感できた。
- ・ 多くの方々に知ってもらい多くの花を咲かせてもらうため、採った種を袋詰めした。
- ・ 毎年参加している市のイベントで「はるかのひまわり」の種を展示し、多くの市民に持って帰ってもらった。

活動を終えて

- ・ 絵本と種との出会いは、幼児や教師を勇気づけ、大きく育ったひまわりを見て励みになった家庭も多く、生かされた命を大切に精一杯生きようとする源となった。
- ・ どの幼児も、次の夏、たくさんの「はるかのひまわり」に出会えることを楽しみにしている。

どうしたの？

A large speech bubble containing ten vertical dashed lines for writing.

なまえ

A vertical rectangular box for writing a name.



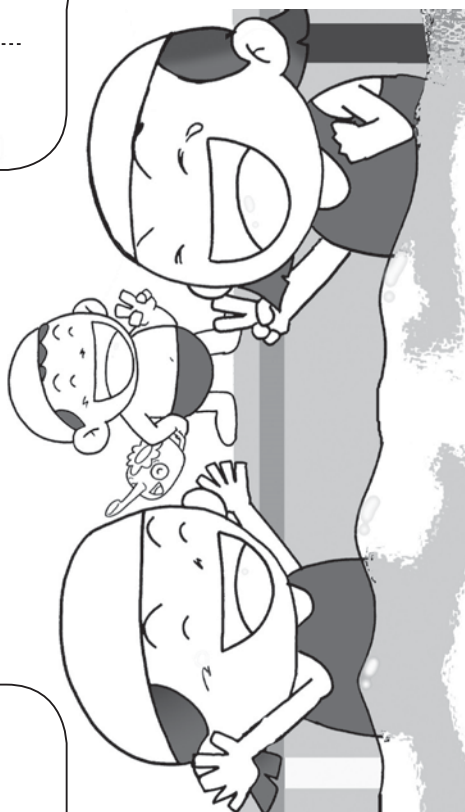
ゆめみだい

なまえ

.....

.....

.....



.....

.....

.....